

2024年度1月例会（担当：経営理念委員会）

参加者数 88名



講師：武澤清則氏

創業社長が後継準備もできないまま急逝され、後継者が廃業に追い込まれた後に、武澤氏（当時33歳）個人で、2億の借入れをされて会社を買取られて進められてきた会社です。その後半年で資金ショートになったり、社内勉強会を導入し、ベテラン中堅社員3名の退職があったりするも、「技術より理念が大切」だと自分に言い聞かせて難局を乗り越えてこられました。

お客様のお困りごとは「自社の問題であり、自分の問題」として、自分ごとにする事で組織の実力が高まっていくというお話の後、ディスカッションを行いました。①「自分の問題と思えるように、どのような工夫をしていますか？」 ②「組織や上司の批評、評論におわる、行動ができないのはなぜ？」 こちらの問いに、数分間のテーブルディスカッションが行われ熱い語り合いとなりました。

組織における理念の役割ということを学ぶ中で、経営理念は①同じ方向、ベクトルとなる ②判断基準となる、行動規範 ③ビジョンや戦略を生み出す ④経営者の生き方、方向性 ⑤個人の士気を高める ⑥羅針盤の役割 と改めて理念の大切を学び直すことができたお話でした。このお話の中でも「社員さんにも理想の職場がある。理想とはどういうこと？」というディスカッションをしました。会社と社員さんのビジョンはどうか？経営者として経営センスや共感力はどうか？そういうことを問う、良い時間となりました。

2024年度1回目の例会は満席で熱気に包まれました

2024年度の記念すべき第一回目の事業である、1月例会は、株式会社ジャロックの武澤清則レクチャーをお招きしてのレクチャー例会として開催されました。

初めての会場であるアットビジネスセンター大阪梅田は交通アクセスもよく、良い感じの会場でした。オブザーブの皆様も多く参加されて、会場は満席。追加で椅子をお借りしたほどです。武澤講師の熱い講演と満席の会場で熱気に包まれた例会となりました。



ディスカッション中の熱気に包まれた会場

武澤講師からは、皆さんと学びたいこととして以下の4つをお伝えいただきました。①今の業績が経営者の実力・組織の実力、競争激化が予想される時代にどうしていくか ②我社の経営難局を乗り越えるスタンスの変化 我社の体験談、個人から組織力へ ③経営の難局を乗り越える組織の実力（組織ケイパビリティ）を高めるとは ④社員さんも願っている「自己成長したい、人の役に立ちたい」



玉元副委員長から記念品の贈呈

私が特に印象に残っているのが、まとめの部分でのお話でした。仕事を通じた体験が経営理念の浸透となり、そして、すべての社員さんは会社の役に立ちたいと思っている、ということをお聴きした時に、自分はそういう風に信じて見てきたのだろうか？どこかで信じてやってきていない自分がいるのではないかと気づきを得ました。

記/総務委員長 松本学



進行：森川会員



趣旨説明：細川副委員長



会長挨拶：中尾会長



姫路から全国大会のPR